

議会だより

# さん のへ

## 第208号 (令和8年3月議会号)

P2	議員提案
P3	令和8年度予算
P4	議決結果一覧
P5	予算特別委員会
P9	一般質問(5議員)
P14	議会活動レポート
P15	議員と町民との交流会、視察報告
P16	常任委員会等改選、次回議会予定、編集後記

### — どんない公園になるのかな? —

長年にわたり町民に親しまれてきた「関根ふれあい公園」が、総事業費1億4617万円(起債1億3170万円、町費1447万円)を投じてリニューアル予定!令和9年度初夏の完成に向け、子どもたちの遊具一新や大人向けの健康増進器具の整備を進めます。多世代が健やかに集い、交流できる新たな三戸町の憩いの場の誕生が楽しみです。



# 議員定数を14人から12人へ 条例改正案を賛成多数で可決

議員提案による「三戸町議会の議員の定数を定める条例の一部を改正する条例案」を審議し、採決の結果、原案のとおり可決しました。

今回の条例改正は、現在の議員定数14人を12人に改めるものです。



採決結果	
✓ 賛成	11
✗ 反対	1
⊖ 欠席	1
▼	
<b>可決</b>	
※議長を除く	

## 反対討論



澤田道憲議員

人口減少や少子高齢化が進む中で、地域の声を行政や議会に届ける役割は、これまで以上に重要になっている。これまで各議員は、それぞれの地域で活動しながら、常任委員会でも所管事項の調査・研究を進めてきた。そうした中で、議員定数を減らせば、地域の声を吸い上げる機会が不足するおそれがある。

また、住民から見て議員や議会の活動がまだ十分に伝わっていない実情もある。そうした状況で定数を削減すれば、行政や議会活動への関心がさらに薄れ、住民の政治参加や投票率の低下につながることも心配される。

住民の声を吸い上げ、民意を行政に反映していくことは住民自治の基本であり、その役割を担うのが議員であり議会である。そのため、議員定数を現行の14人から12人に削減することには反対する。

## 賛成討論



山田将之議員

今回の見直しは、単に議員の人数や経費の問題ではない。議会基本条例に掲げる「政策提言につながる、よりアクティブな議会」を実現していくために、議会の機能をどう高めていくか、そうした観点から議論を重ねてきた。

これまでの議員間討議の中でも、現在の議会活動はまだ十分とは言えず、これからは活動の量も質も高めていく必要があるという認識を共有してきた。その上で、活動量が増えても議会としてしっかり機能していけるのか、兼業の議員でも参加しやすい仕組みはどうあるべきか、委員会が安定して機能する体制はどうあるべきか、地域の声をどう拾い、視察をどう成果につなげるか、さらに町民に対してその理由をどう説明するかなど、さまざまな視点から議論してきた。

その結果として、議員一人ひとりの役割と責任をより明確にし、議論の密度と意思決定の質を高めるためには、2名削減が現実的で妥当だと判断した。今回の条例改正はゴールではなく、これからの議会改革の出発点である。議会の活動と質をさらに高め、その成果を町民に還元していく、その覚悟を持って本案に賛成する。

## 今後の議会活動に向けて

今回の定数削減は、議会基本条例に掲げる「政策提言につながる、よりアクティブな議会」の実現に向け、議会のあり方そのものを見直す議論の中で行われました。

今後は、定数削減を目的で終わらせるのではなく、委員会活動の充実、議員間討議の活性化、地域の声を把握する仕組みづくり、政策提言につながる議会活動の強化が求められます。

三戸町議会では、町民に開かれた議会、そして町政の課題解決に向けて行動する議会を目指し、引き続き議会活動の充実に取り組んでいきます。



議案の概要	
議案名	議員提案第1号
内容	議員定数を14人から12人に改める条例改正
結果	賛成11、反対1、欠席1で可決

ポイント	
✓	議員一人ひとりの役割と責任を明確にします
✓	議論の密度と意思決定の質を高めます
✓	町民の声を的確に把握し、政策提言につなげます

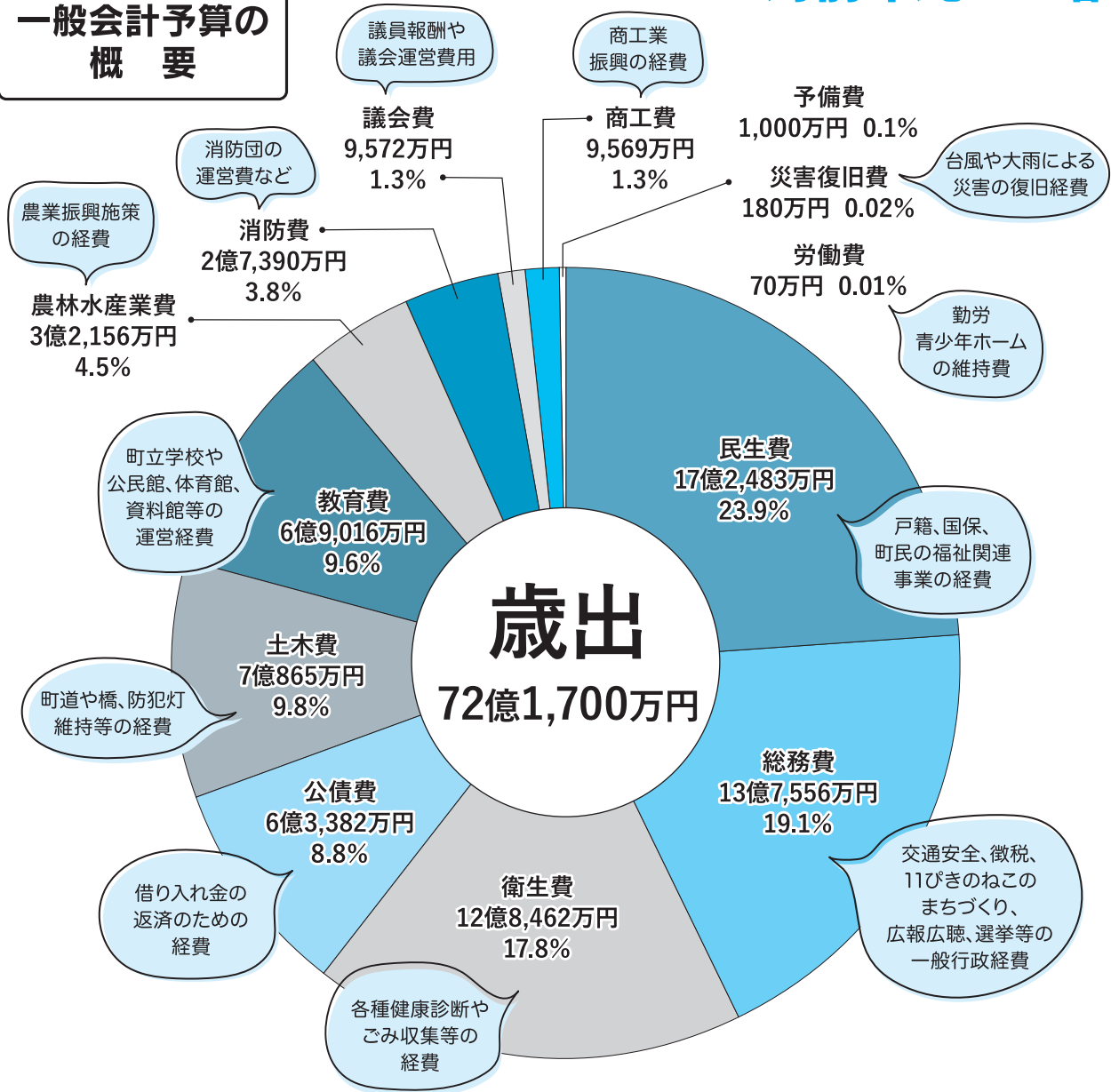
今後も町民の皆さまとともに、信頼され、行動する議会を目指してまいります。

# 新年度のまちづくり予算を 決定しました。

令和8年度各会計予算を可決

対前年比4%増

## 一般会計予算の 概要



## 特別会計予算額

	会計名	新年度予算額	前年度比	増減率
特別会計	介護保険	17億4510万円	△759万円	△0.4%
	後期高齢者医療	1億8164万円	1907万円	11.7%
	国民健康保険	12億9037万円	3693万円	2.9%
	学校給食	4567万円	199万円	4.6%
公営企業会計	三戸中央病院 (収益的支出)	20億650万円	1億1673万円	6.2%
	簡易水道事業 (収益的支出)	8332万円	△1901万円	△18.6%
	下水道事業 (収益的支出)	2億4924万円	△394万円	△1.6%

## 第529回 三戸町議会臨時会 議決結果一覧

議案番号	件 名	議決月日	議決結果
議員提案 第1号	三戸町議会の議員の定数を定める条例の一部を改正する条例案(2ページ参照) 【概要】三戸町議会の議員定数を定める条例を14人から12人に改正するもの。	3月13日	原案可決 (※1)
報告 第2号	専決処分した事項の報告及びその承認を求めることについて 【概要】除雪費について、予算不足が見込まれるため		原案承認
議案 第2号	三戸町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について 【概要】事業の根幹となる設備及び運営に関する基本的な基準を定め、安全かつ質の高いサービスが提供される基盤を整えるため制定するもの。		原案可決
議案 第3号	三戸町特定乳児等通園事業の運営に関する基準を定める条例の制定について 【概要】事業実施主体が事業を行う場合に運営に関する基準を定めるもの。		
議案 第4号	三戸町職員等の旅費及び費用弁償に関する条例等の一部を改正する条例案 【概要】国家公務員等の旅費に関する法律の改正及び青森県の旅費条例の改正を踏まえ、所要の見直しを行い、併せて関係条例の規定を整備するもの。		
議案 第5号	三戸町人材育成基金条例の一部を改正する条例案 【概要】奨学金の運用に合わせた所要の改正を行うもの。		
議案 第6号	三戸町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案 【概要】児童福祉法等の一部を改正する法律が施行されたことを受け、所要の改正を行うもの。		
議案 第7号	三戸町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案 【概要】児童福祉法等の一部を改正する法律及び児童福祉施設の設備及び運営に関する基準等の一部を改正する内閣府令が施行されたことを受け、所要の改正を行うもの。		
議案 第8号	三戸町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案 【概要】児童福祉法等の一部を改正する法律が施行されたことを受け、所要の改正を行うもの。		
議案 第9号	三戸町国民健康保険条例の一部を改正する条例案 【概要】金融機関名の規定を削る改正を行うもの。		
議案 第10号	三戸町道路占用料等徴収条例の一部を改正する条例案 【概要】占用料の額を、道路法施行令別表に定める額に準ずる改正を行うもの。		
議案 第11号	三戸町遺児入学祝金等支給条例を廃止する条例の制定について 【概要】国や県の子どもの貧困対策の推進や児童扶養手当の拡充等により、支援の充実が図られたことから、条例を廃止するもの。		
議案 第12号	田子高原広域事務組合規約の変更について 【概要】関係町村の分担算出項目基礎の見直し及び財政需要に向けた基金積立に関する整備を行うため規約の一部を変更するもの。		
議案 第13号	三戸町過疎地域持続的発展計画の変更について 【概要】三戸町過疎地域持続的発展計画の計画期間変更をするもの。		
議案 第14号	辺地に係る総合整備計画の変更について 【概要】労務単価や資材の高騰により予定される事業費を上回るため計画内容を変更するもの。		
議案 第15号	三戸町民プールの指定管理者の指定について 【概要】管理者を指定するため、議会の議決を求めるもの。		
議案 第16号	令和7年度三戸町一般会計補正予算(第10号)		
議案 第17号	令和7年度三戸町立学校給食共同調理場特別会計補正予算(第1号)		
議案 第18号	令和7年度三戸町後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)		
議案 第19号	令和7年度三戸町介護保険特別会計補正予算(第2号)		
議案 第20号	令和7年度三戸町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算(第3号)		
議案 第21号	令和7年度三戸町国民健康保険直診勘定三戸中央病院事業特別会計補正予算(第2号)		
議案第22号 から 議案第30号	令和8年度三戸町一般会計予算、各特別会計予算(3ページ参照)	3月17日	

※原案可決、原案承認されたものは、いずれも議長を除き、賛成12・反対0・欠席1

※1 賛成11・反対1・欠席1。議長を除く。

# 令和 8 年度予算審査（主な事業と質疑）

## 民生費



新規

### シニアお出かけ応援 タクシー利用助成金

高齢者の外出機会を確保し、病院・買い物・社会参加を促進するための助成制度。

#### Check Points!

##### Q 千葉有子委員

申請場所と周知方法は。また郵送申請の対応は可能か。免許返納者との制度の関係はどうか。

##### A 健康長寿課長

対象は町内在住の 65 歳以上で免許を持たない方。

申請は健康長寿課と各支所で受け付ける。

町内回覧と対象者への申請書送付により周知し、返信用封筒を同封して郵送申請にも対応する。

免許返納者向け助成と併用可能だが、返納者向けは 1 回限りである。

## 総務費



新規

### 町内会街路灯修繕 事業費補助金

町内会管理の街路灯の老朽化に対応し、安全確保のため修繕費を補助するもの。

#### Check Points!

##### Q 栗谷川柳子委員

補助金は新設か。またその背景は何か。

##### A 沼澤町長

本補助金は新設であり、町内会連合会総会での要望を受けて予算化した。

平成 27 年度設置の街路灯 190 本の一部に不具合が出ている。

修繕は 1 基約 12 万円で、令和 8 年度は 5 本分を計上した。今後も継続的な改修が必要と考えている。

##### Q 栗谷川柳子委員

地域の声を拾った予算として評価する。今後も実態に合った補助率の検討を求める。



### キャッシュレスレジ 導入事業

窓口業務の利便性向上と会計処理の効率化を図るため、キャッシュレス決済対応レジを導入するもの。

#### Check Points!

##### Q 山田将之委員

対応する決済手段と、病院と同様の仕組みか。また現金との併用やランニングコストについて伺う。

##### A 会計課長

決済手段は QR コード、クレジットカード、電子マネーを想定している。

中央病院とは別会社を想定し、カードリーダーと自動釣銭機の構成である。

現金と併用し運用する。保守委託料は月額 2 万 2,550 円である。

## 衛生費

### エアコン設置 支援事業費補助金

熱中症対策としてエアコン設置費用を補助する制度で、対象を拡大。

#### Check Points!

#### Q 栗谷川柳子委員

増額の理由と対象拡大の内容は。また今後の継続は。

#### A 健康長寿課長

従来の高齢者世帯に加え、子育て世帯や障害者世帯を対象に追加した。

補助上限を7万円に引き上げ、30件分を見込んでいる。

今後も必要な支援として検討していく。

### 生ごみ減量化 チャレンジ事業

家庭ごみの減量を目的に、生ごみ処理機等の購入費を補助するもの。

#### Check Points!

#### Q 和田誠委員

1世帯あたりの対象台数と申請方法は。

#### A 住民福祉課

1世帯1基まで対象。  
町内業者で購入後、申請する仕組みである。

#### A 沼澤町長

補助率は3分の2、上限4万円。  
機械式乾燥機の活用を推奨している。ごみ減量のため活用してほしい。

#### 新規

### アピアランスケア用品 購入費助成金

がん治療に伴う外見変化への支援として、医療用ウィッグ等の購入費を助成する制度。

#### Check Points!

#### Q 五十嵐淳委員

助成率と上限額、対象者、対象品目の範囲は。

#### A 健康長寿課長

購入費の2分の1を助成し、上限は3万円。

対象は町内在住でがん治療を受けた方。

医療用ウィッグ、毛髪付き帽子、人工乳房などが対象で、保険適用の再建手術は対象外。

#### Q 山田将之委員

対象者数の把握方法と周知の考えは。

#### A 健康長寿課長

県のデータを基に推計している。

回覧やSNSに加え、医療機関と連携し周知を図る。必要な方に確実に届くよう取り組む。

## 民生費

#### Q 山田将之委員

対象者数の見込みと予算の妥当性、想定を超えた場合の対応、今後の制度継続の考えは。

#### A 健康長寿課長

対象者は約2,000人と推計している。

申請率・利用率をそれぞれ50%と見込み、522人分として積算した。

想定を超えた場合は補正予算で対応を検討する。

#### A 沼澤町長

外出機会の確保は健康長寿につながる重要な施策である。

コミュニティバス等を補完する制度として継続していく。

財源はふるさと納税なども活用しながら維持したい。

#### Q 竹原義人委員

免許はあるが車を持たない方も対象とすべきではないか。

#### A 沼澤町長

現時点では免許がない方を対象としている。

ただし実態として運転していない方もいるため、確認方法を含め対象拡大を検討したい。



1日目

2日目

予算特別委員会の詳細は上記リンクからご確認いただけます。

## 土木費



### 町道整備事業

道路の安全性確保と利便性向上のため整備を行うもの。

#### Check Points!

**Q** 山田将之委員

優先順位の考え方は。

**A** 建設課長

要望、緊急性、財源などを総合的に判断している。

### 関根ふれあい公園改修事業

老朽化した公園を再整備し、遊び場と交流拠点の機能強化を図るもの。

#### Check Points!

**Q** 山田将之委員

事業の目的と位置づけは。

**A** 建設課長

遊具更新と遊び場確保が目的で、住民要望を踏まえて整備する。

**A** 沼澤町長

町内外から愛される公園として整備し、健康と交流の拠点としたい。

## 商工費



#### 新規

### お花見ツアー開催事業

観光誘客と地域経済活性化を目的に、お花見ツアーを実施。

#### Check Points!

**Q** 栗谷川柳子委員

規模や客層、経済効果、今後の展開は。

**A** まちづくり課長

5回実施予定で229人の申込みがある。

飲食や物産販売により一定の経済効果を見込む。

アンケートで効果測定を行う。

**A** 副町長

広域観光ルートに組み込まれたこと自体が成果であり、今後の定番化を目指す。



## 農林水産費



### 鳥獣対策総合事業

有害鳥獣被害の防止のための捕獲・防護対策を行うもの。

#### Check Points!

**Q** 五十嵐淳委員

予算が減っているように見えるが対策はどうか。

**A** 農林課長

県事業を前倒したためであり、実質は前年同規模。

今後も必要に応じて事業を拡充する。

#### 新規

### スポットワーク活用促進事業

農業分野の人手不足解消のため、短期雇用マッチングサービスの利用料を補助。

#### Check Points!

**Q** 久慈聡委員

事業内容と農家へのメリットは。

**A** 農林課長

利用手数料を補助する制度。実証で即時応募があり有効性が確認されている。

**A** 沼澤町長

人材確保と事務負担軽減のメリットがある。継続的な労働力確保につなげたい。

## 教育費

### 奨学金債権回収事業

奨学金の滞納分について外部委託により回収を図るもの。

#### Check Points!

**Q** 栗谷川柳子委員

滞納状況と委託理由は。

**A** 教育委員会事務局長

13件、約614万円の滞納があり、悪質案件について弁護士委託で対応する。

## 特別会計 (学校給食)

### 県産食材活用推進事業

県内市町村の特産品を学校給食で相互に活用し、地産地消と流通促進、食育の推進を図る県の補助事業。

#### Check Points!

**Q** 栗谷川柳子委員

補助金12万7千円の具体的内容は。また年1回限りの補助なのか。

さらに、食育の観点からも重要な取組であり、県に対して継続や拡充を要望していく考えはあるか。

**A** 教育委員会事務局長

本事業は青森県農林水産部の事業で、県内市町村の特産品を学校給食で相互活用するものである。

令和7年度からの2か年事業で、三戸町は令和8年度に採択され実施予定。

採択制であり、補助は年度内1回限りである。

事業効果を見ながら、必要に応じて県への働きかけも検討していきたい。

## 教育費

### 図書館イベント事業

町出身作家を招いた上映・トークイベントにより文化振興と読書推進を図る。

#### Check Points!

**Q** 千葉有子委員

目的と効果は。

**A** 教育委員会事務局長

文化振興と図書館利用促進を目的とし、来場者約80人を見込む。

## 新規 大学生等応援 特産品贈呈事業

町外で生活する学生とのつながり維持を目的に特産品を送付するもの。

#### Check Points!

**Q** 山田将之委員

対象者把握と事業効果は。

**A** 教育委員会事務局長

申請方式で把握し、宅配で送付する。

ふるさと意識の醸成を目的とする。

## 三戸高校クリエイティブ 活動支援事業

高校の探究活動等を支援する事業。

#### Check Points!

**Q** 五十嵐淳委員

減額の理由は。

**A** 教育委員会事務局長

事業内容の見直しと外部財源の活用によるもの。継続して支援する。

## 消防費



### 消防資機材整備事業

消防団の装備充実のため、防寒ジャンパー等を整備するもの。

#### Check Points!

**Q** 千葉有子委員

配備人数と対象範囲は。

**A** 総務課長

292人分を見込み、全団員を対象とする。



### 自主防災組織支援事業

地域防災力向上のため組織設立と活動を支援。

#### Check Points!

**Q** 山田将之委員

現在の設置状況と今後の目標は。

**A** 総務課長

現在19組織で、全町内会設置を目指す。

**A** 沼澤町長

世帯カバー率100%を目標に、機能強化を進める。

五十嵐 淳 議員



**Q** 教育行政の方向性と教育環境のあり方について

昨年11月に原教育長が就任し、新体制で教育行政が進む中、少子化による単一学年・単一クラス化を見据え、今後の教育環境の在り方と教育行政の方向性について、4点伺う。

- ① 教育長としての教育行政基本方針及び重点政策
- ② 学力・体力向上及び多様な個性の伸長に関する考え方針
- ③ 不登校等の把握体制及び対応方針
- ④ 小規模校・単一クラス体制における教育環境及びセーフネットのあり方

**A** 原教育長

① 小中一貫教育20年の理念を継承しつつ、「立志科」と「英語科」を重点施策に据え、地域と連携した学びと英語力向

**Q** 一学年一クラス化で逃げ場がなくなることへの対応は？

**A** 援助希求力を育て、相談機能を充実

上を進める。

- ② 確かな学力保障を重視するとともに、運動習慣づくりを進め、多様な個性に応じた「個別最適な学び」を推進する。
- ③ 不登校は学校アンケートや出欠状況で把握し、家庭訪問やオンライン対応を行いながら、必要に応じ専門機関につなげて支援する。
- ④ 小規模・単一クラスの利点を生かしつつ、人間関係固定化を防ぐため交流機会を広げ、自ら助けを求める力を育む教育環境を整えていく。

**再質問**

少子化で単一クラス化が進む中、人間関係の固定化や逃げ場のなさによる不安に、今後どう対応していくのか。

**A** 原教育長

相談機能を充実させるとともに、「援助希求力」困ったときに誰かに助けを求められる力を

学校教育全体で育てていくことが必要である。

**再質問**

制度を利用したくても使えない家庭をどう支えるか。

**A** 原教育長

制度課題と家庭事情を切り分けて対応する。

**Q** 学びの機会確保と子育て支援制度の政策的整理について

習い事応援補助金は学びの機会を広げる施策として評価している。しかし、家庭環境によつて利用できない層や制度の使いやすさの課題もあることから、学びの機会確保と子育て支援制度の在り方について、2点伺う。

- ① 習い事応援補助金の評価及び機会アクセスの確保
- ② 子育て世帯の声の把握方法及び実態調査・アンケートの実施状況

**A** 沼澤町長

① 習い事応援補助金は、子どもが学ぶ意欲を支えるため創設した県内でも例のない制度。小学生約54%、中学生約28%が申請しており、保護者からも高い評価を得ている。今後も、より良い制度となるよう改善を図りながら支援を続けていく。

② 子育て世帯の声は、実態調査や子ども・子育て会議、各種会合などを通じて把握しており、今後も幅広く意見を聞きながら施策に反映していく。

**再質問**

習い事応援補助金を利用できていない家庭を、町はどう把握し、対応していくのか。

**A** 沼澤町長

制度自体の周知は行き届いており、アクセスできる環境は整っていると考えている。その

上で、実際に習い事を利用できるかどうかは家庭事情による部分も大きく、制度の課題と家庭の課題を切り分けながら、町として対応できる部分を充実させていく。



栗谷川柳子 議員



**Q1、事業費高騰に対するコスト抑制の検討状況について。**

公営住宅を10戸削減してもなお約24億円の増額となる現状に対し、これまでの検討を生かしつつ、さらなる財政負担の軽減に向けた設計や仕様の工夫を検討する余地はないか。

**Q2、入居者の将来的な加齢に配慮した住戸構造について。**

今回の計画では、2階建ても想定されている。たとえ一時的な入居であったとしても、居住が長期化すれば入居者は高齢化していく。将来的な利便性や安全性を第一に考えた場合、現状の構造がベストであるのか。

## Q・(仮称)まちなか第1団地整備計画について A・入居者の高齢化に配慮する

**Q3、需要予測の妥当性と「分らない」と回答した世帯への対応について。**

意向調査において、「分からない」と回答した13世帯の意向をどう分析し、今回の戸数設定に至ったのか。あわせて、町内民間アパートの空室状況等を踏まえた地域全体の住宅需給バランスについて伺う

**A** 沼澤町長

① 適正な整備戸数を検証するため、移転対象の入居者にアンケートを実施。その結果を基に、当初の公営住宅40戸及び地域優良賃貸住宅10戸の合計50戸をいづれも木造建築とする計画から、公営住宅を10戸減じた30戸とし、物価変動の影響を把握するため、建設工事費デフレクターを活用し、総事業費を精査している。また、令和8年度公募型プロポーザルを導入し、事業者の柔軟な発想や施工技術により、総

事業費の抑制に資するよう進める。

② 加齢による将来的な安全性等に配慮した構造とするよう仕様書に規定し、1階建てまたは2階建てとするかについては、提案を受け、総合的に判断したい。仮に2階建てを採用することとなった場合も、入居される世帯のご希望については、十分に配慮する。

③ 今後、意向が「移転を希望する」に変更となった場合を考慮し、整備戸数を30戸と見込んだ。

また、町内民間アパートの住宅需給バランスについては、「(仮称)まちなか第1団地整備事業は、著しく老朽化した町営住宅に入居している世帯を最優先するもので、今後も民間への影響がないよう十分に配慮していく。

**再質問 (2) 関連**

計画戸数を10戸減らした分の敷地に、高齢者や加齢に配慮した平家建ての住宅整備ができないか。

**A** 建設課長

公募型プロポーザルで決める業者からの提案に期待していきたい。

**再質問 (3) 関連**

戸数不足となった場合には、空き家や町内民間アパートの活用を考えていく余地はないか。

**A** 沼澤町長

「(仮称)まちなか第1団地」という名称自体、町民の誤解をまねくため、改めていきたい。今後も高齢者への配慮、そして民間への影響についても厳守していく。

事業完了後に戸数不足となったときには、民間からの借り上げを検討する。民間の事業者の皆様にも事業を継続していた

だけるし、町の維持管理費低減も期待できる。全国的に民間アパートの活用が普及してきているため、人口が減少し、住宅も需要が減ってくるということを考えれば、民間から借り上げるといった発想を持つていかなければならない。





Q 各種事業の現状と今後について

沼澤町長就任以前に取り組んでいた各種事業において、現在の運用状況、町民の意見、問題点の把握、解決のための方策について5点伺う。

- ①地域担当職員制度について
- ②コワーキングスペースについて
- ③病後児保育ジャブについて
- ④町民プールについて
- ⑤三戸中央病院について

A 沼澤町長

- ①職員が地域に出向き課題把握と解決につなげる制度として実施。14町内会に37人を配置し、総会参加などの活動を展開。導入3年目を迎え、今後は事業評価を行い継続の可否を判断する。
- ②移住促進・起業推進を目的に開設し、利用者数は横ばい(R

Q・町長が継承した各種事業の現状と今後について  
A・事業評価を実施し、利用促進や適切な管理運営を行う

6・567人)。民間連携や学生向け情報発信を実施。今後は交流拠点としての活用を強化し、利用促進を図る。

- ③令和2年開設、本年利用は年間27件。職員・保育士・看護師で運営し、利用者の声を踏まえ改善を継続。今後も重要施策として、施設と人員の有効活用を図る。
- ④学校授業と一般利用を目的に供用し、利用者数は2,556人で横ばい。高温の影響で利用減も見られるが、今後は指定管理者と連携し、健康づくりの場として利用促進を図る。

- ⑤外来・入院、24時間の二次救急、訪問診療・訪問看護など、幅広い医療を提供している。令和8年度からは、弘前大学医学部附属病院と連携した遠隔診療を導入し、人工透析管理において専門医の支援を受け、訪問診療分野でも遠隔医療の活用を進める予定である。一方で、コロナ禍以降の受診患者数の回復は鈍く、人件

費や燃料費の高騰、医療人材の地域偏在も重なり、経営環境は厳しい状況が続いている。こうした中、経営強化プランに基づく改善を進め、地域医療フォーラムの開催により住民や患者に信頼される病院として安定的な運営と利用促進に取り組んでいる。

再質問 (2) 関連

創業支援・企業創出・交流促進といった目的の達成状況は。

A まちづくり課長

当初の目的にはまだ十分到達していない。一方で、長時間利用の増加や利用料収入の増加から、利用の定着や認知度向上は進んでいる。

再質問 (3) 関連

利用者が少なく施設や人員が有効利用できていないという課題がある。また、病児保育や訪問型などへの拡充についても、人材不足により進んでいない現状。今後の取り組の強化・展開

はどうしていくのか。

A 沼澤町長

医師や看護師などの人材不足により、現時点での拡充は困難な状況にある。また、病院の運営状況を踏まえると院内での実施も難しい。今後は、委託も含めて実施可能な手法を検討しながら、引き続き実現の可能性を模索していく。

再質問 (4) 関連

猛暑の中でプール内の湿度が高く、熱中症リスクが高く、子どもや一般利用者の安全確保に課題があるのではないかと。

A 沼澤町長

指定管理者と連携しリスクマネジメントを行っており、プール施設内が高温時には注意喚起や休憩の実施などで対応している。

今後も安全・安心を念頭に、指摘内容を踏まえた適切な管理運営を行っていく。

再質問 (5) 関連

厳しい経営環境が続く中、待ち時間の長さや接遇、施設環境などの課題も見受けられるが、今後どのように病院運営の改善と質の向上を図り、地域医療を維持していくのか。

A 沼澤町長

地域医療を支える病院の維持は不可欠であると認識している。そのため、利用者の声を改善の契機と捉え、迅速に対応しながら信頼される病院づくりに努めていく。あわせて、議会や地域住民と連携し、限られた医療資源の中で効率的かつ持続可能な運営を図り、健全経営に取り組んでいく。



藤原 文雄 議員



Q 町有財産の有効活用について

町は、公共施設等総合管理計画に基づき、所有財産の維持管理を適正に行っているかと理解しているが、有効に活用されているかについて、町長の目指す史跡・文化財の活用による歴史・文化・観光の推進や、城山公園の有効活用に通じるため、以下2点伺う。

①旧ハローワーク跡地利用に対する、現時点での構想はあるか。  
②利用頻度の少ない町有財産について、有効活用につながる具体的施策や計画はあるか。

A 沼澤町長

町では、平成29年3月に三戸町公共施設等総合管理計画を策定しており、公共施設等の状況や今後の見通しについて把握・

Q・旧ハローワーク跡地利用の構想は？  
A・備蓄倉庫として活用し、利用計画を策定する

分析を行い、適正な維持管理に努めている。

①旧ハローワークは、令和6年に830万円で購入している。

三戸城跡・城山公園のデジタルセンターなど観光に活用する方法を模索してきたが、中規模改修で4,500万円以上、大規模改修に至っては1億円以上の改修費用が見込まれたことから予算上を見送った。引き続き、最小の修繕費用及び維持費用での利活用ができないか検討してきたところであり、災害用備蓄品として保管している非常用食料が備蓄倉庫が手狭であったため、まずは備蓄倉庫として活用することとし、係る経費は令和8年度当初予算に計上させていただいた。

②利用者の少ない施設については、今後も各施設の利用状況を把握・分析し、有効活用を努め、統廃についても検討していく。

再質問 (①関連)

城山公園の玄関口である優位性を考慮し、印象の良い使い方はできないか。

A 沼澤町長

まずは城山のイベント時に、徒歩で利用される方に駐車場として開放することで利用し、今後は随時、有効活用方法を検討する。

再質問2 (①関連)

まずは、中期的な活用方法として、デジタルセンターや観光案内所を想定して検討すべきではないか。



A 沼澤町長

これから計画策定に向け、中期的な活用についてもしっかり考えていく。

再質問3 (②関連)

版画工房・図書館・勤労青少年ホームの場所的優位性を利用した有効活用する考えはあるか。

A 教育委員会事務局長

町外の方のみの利用で、三戸町民の利用がない施設である版画工房は今後、町の利用者増は望めないため、版画工房は使用用途を変更する方向で考えていく。

図書館・2階部分にエアコン等がなく、積極的に貸し出せる状態ではないが、関係団体に紹介したいと考えている。

再質問4 (②関連)

版画工房について、まずは、備品の廃棄を含めた整理をやらなければ、次の計画に行け



ないのではないかと。

A 教育委員会事務局長

版画工房の設置条例があるので、そちらをまずは議会に上程して、それからの予算措置をもって進めていきたい。

A 沼澤町長まとめ

3施設については、社会教育施設エリアであると理解しており、今後の管理運営を考慮して複合化していくことも一つの選択肢として方法を検討していく。



佐々木和志 議員



**Q** 熊による人身被害対策について

高齢者や子供を熊の被害から守るため、教育施設や公共施設において対策を講じるべきとの考えから5点について答弁を求める。

**質問①**

学校敷地内への侵入対策と通学時の安全確保について



**Q** 熊による人身被害対策は？

**A** 鳥獣対策室、危機管理室を設置

**A** 原教育長

学校敷地内への侵入した場合は、子供たちを校舎内に留め置き、防火シャッターなどで安全を確保したうえで、警察等に対応を依頼するとともに、危機管理マニュアルに基づいて対応する。通学時の対策に関しては、目撃情報を保護者に一斉送信し、徒歩の通学はさせず保護者による送迎とする。また安全の確保が出来な場合は休ませてもよいこととしている。

**質問②**

児童生徒や高齢者が利用する公共施設の侵入対策について

**A** 沼澤町長

役場庁舎、ふくじゅそう、三戸中央病院においては押しボタン式の自動ドアに改修しており、中央児童館は4月までに改修予定。その他の施設に関しても順次対策を講じていく。

**質問③**

民間保育所等への熊対策支援について

**A** 沼澤町長

各施設において要望等を聴取し、クマスプレーなどの対策用品購入への助成の希望があったので、必要な支援を検討する。

**質問④**

屋外の公園等における対策について



**A** 沼澤町長

草木の刈払いやパトロールの強化、忌避剤の設置を行ってきた。今後はクマ対策パッケージ等を活用し、対策を講じていく。

**質問⑤**

クマに関する総合的対策体制の構築について

**A** 沼澤町長

新年度に農林課内に鳥獣対策室、総務課内に危機管理室を設置し体制を強化していく。



**クマ注意**

生ごみを外に出さない・放置しない



会議録

# 議会活動レポート



Facebook  
でも発信中!!

## 総務文教常任委員会

山田 将之・藤原 文雄  
千葉 有子・竹原 義人

### 【調査事項】

デジタル行政の進捗状況及  
び空き家対策について

令和8年2月26日、担当課から説明  
を受けました。

### 【主な調査結果・意見等】

①「AIさくら」について

引き続き浸透を図っていただき  
たい。

②空き家対策について

危険度と再利用の観点から、資  
源として利用可能なものは積極的  
に活用していただきたい。



「AIさくら」

③マイナンバーカードについて

保有率の向上を図るため活用法  
を検討していただきたい。

## 民生商工常任委員会

栗谷川 柳子・柳 隼 圭太  
澤田 道憲・和田 誠  
松尾 道郎

### 【調査事項】

高齢者の生活支援・見守り  
体制について

令和8年2月13日、担当課から説  
明を受けました。

### 【主な調査結果・意見等】

①民生委員が欠員となっている地区  
は、早期に人選がなされ活動がで  
きる体制が整うよう関係者への働  
きかけをお願いする。

②災害時に円滑な避難ができるよう、  
要支援者の情報は関係者間で情報  
共有を図ってほしい。

③民生委員・ほのぼの交流協力委  
員・住民福祉課・健康長寿課で高  
齢者の生活支援・見守りについて  
情報共有と協力体制の構築を図っ  
てほしい。

## 建設農林常任委員会

久慈 聡・番屋 博光  
五十嵐 淳・佐々木和志

### 【調査事項】

鳥獣被害及び対策状況に  
ついて

令和8年2月25日、担当課から説  
明を受けました。

### 【主な調査結果・意見等】

①鳥獣目撃状況

・クマ 54件（前年20件）  
・イノシシ 15件（前年8件）  
・サル 27件（前年1件）  
②鳥獣被害状況  
・クマ 30件（前年11件）



民生委員の方々からの  
聞き取りのようす

・イノシシ 38件（前年28件）  
・シカ 6件（前年0件）  
・その他 1件（前年0件）  
③鳥獣被害対策  
鳥獣捕獲状況

・クマ 5頭（前年4頭）  
・イノシシ 5頭（前年4頭）  
・シカ 3頭（前年2頭）  
・カラス 8羽（前年8羽）  
・カワウ 1羽（前年0羽）

侵入防止  
・捕獲わな購入費補助金を活用し、  
16名が捕獲わな等を設置した。  
・広域柵設置検討会を開催。下田  
地区農家9名、青森県職員、地  
域おこし協力隊、電気柵取扱業  
者が参加。

広域柵設置に向けた説明のほか、下  
田地区における作付け状況や被害状  
況を地図に記入しながら情報共有を  
行った。



被害鳥獣対策の説明のようす

# 議員と町民との交流会

三戸町議会では、町民の皆さんの声をお聞きするため、また「開かれた議会」を目指して、町民との交流会を、毎年開催しています。



建設農林常任委員会

(久慈聡、番屋博光、五十嵐淳、佐々木和志)

日時：令和8年2月25日  
場所：役場4階大会議室  
参加者：猟友会6名

## テーマ 「鳥獣被害対策の現状と課題について」

### ①被害の状況・発生傾向

山の餌不足が原因となり、クマ・イノシシが人の生活域に出没する件数も増加傾向にある。

鳥獣被害件数増加に対し、個体が罾等を学習することにより、捕獲率は低下傾向にある。

### ②猟友会の活動実態と負担

猟友会の出動は実質ボランティアに近いことから、出動できる人材が限定され負担が集中している。

銃器・弾薬・練習費用の自己負担額が大きい。

市街地対応は特に心理的・技術的リスクが高い。

### ③制度・体制面の課題

出動報酬と実費・リスクの乖離が

大きい。

出動基準が曖昧であることから、行政・地域・猟友会の役割整理が不足している。

交流会で頂いた、皆さまの貴重な意見を整理し、課題解決のため、町と協議してまいります。

本当にありがとうございます。

単位：a、円

獣種	被害件数	被害面積	被害金額	被害内容
クマ	30 (11)	108 (22.5)	679,400 (75,500)	飼料作物 4件 101a 338,900円 果樹 15件 7a 340,500円 その他 蜜蜂巣箱の破損 牧草ロール等の破損 牛舎への侵入
イノシシ	38 (28)	65 (12.4)	1,094,000 (178,400)	水稲 17件 65a 852,000円 苗箱破損 1件 200枚 242,000円 その他 畦畔の掘り起こし 果樹園地の掘り起こし
シカ	6 (-)	1 (-)	48,600 (-)	果樹 1件 1a 48,600円 その他 りんごの花芽や下枝の食害
その他	1 (-)	0.5 (-)	8,700 (-)	枝豆 1件 0.5a 8,700円
合計	75 (39)	174.5 (34.9)	1,830,700 (253,900)	

※括弧内は、令和7年1月末時点の数値

# 視察報告

## 岩手県軽米町

### 行政視察報告

#### 【テーマ】町の賑わいの創出

令和8年2月12日、複合施設を活かした、にぎわいと交流の創出及び公共施設の集約化について調査研究を行うため、議員12名で岩手県軽米町を訪問しました。

軽米町は、岩手県の北端に位置、東は久慈岳を望み洋野町と、南は久慈市と九戸村、西は折爪岳を隔て三戸市と、そして北は青森県八戸市、南部町、階上町と接している。人口約8千人であり当町とほぼ同じ規模。

軽米町議会のご協力により、複合型公共施設の効果について説明を受けました。

#### （1）整備の背景

軽米町では、生涯学習活動の成果を発表する場を発表する拠点施設が不足していたことに加え、図書館や公民館などの機能が分散していたことから、これらを一体的に整備する方針が示された。

また、人の流れを中心部に集め、商店街の活性化につながることも重要な目的とされた。整備にあたっては、町民約300人へのアンケートや関係団

体からの意見ヒアリングが行われ、常に人が集まる施設づくりが目指された。

#### （2）建設費と財源

総事業費約34億8千万円。主な財源①過疎債、約22億円②ふるさと納税、約2億5千万円③基金、約3億円④環境省補助金、約4億円⑤町の一般財源、約2千3百万円。

#### （3）施設名称の決定方法

「宇漢米館」の名称は、一般公募により決定された、地域の歴史に由来する名称。

#### （4）施設の主な機能

①多目的ホール②図書館③トレーニング・フィットネスルーム④音楽スタジオ⑤調理室⑥カフェ⑦子育て支援スペース⑧バスターミナル

#### （5）収入と維持管理費

利用料収入、約144万円。年間維持管理費、約6350万円。

#### （6）施設機能と利用実態から見る成果

施設複合化により、月平均約4千3百人。



「宇漢米館」視察のようす

## 常任委員等が 改選されました。

3月20日で2年間の任期が満了となり、3月21日から下記の議員によって構成される委員会の活動がスタートしました。

### 議会運営委員会

議会の円滑、効率的化のため、議会運営に関する各種協議を行う委員会



委員長  
藤原 文雄



副委員長  
久慈 聡



委員  
五十嵐 淳



委員  
和田 誠



委員  
山田 将之



委員  
栗谷川 柳子

### 総務文教常任委員会

総務や財務、税務、消防、教育に関する事務などを所管する委員会



委員長  
山田 将之



副委員長  
藤原 文雄



委員  
千葉 有子



委員  
久慈 聡



委員  
竹原 義人

### 民生商工常任委員会

商工業や民生、社会福祉、国民健康保険、三戸中央病院に関する事務を所管する委員会



委員長  
栗谷川 柳子



副委員長  
柳 圭太



委員  
松尾 道郎



委員  
澤田 道憲



委員  
佐々木 和志

### 広報編集委員会

さんのへ議会だよりの編集を所管する委員会



委員長  
山田 将之



副委員長  
栗谷川 柳子



委員  
五十嵐 淳



委員  
藤原 文雄



委員  
久慈 聡

### 建設農林常任委員会

土木や建設、水道、農林行および都市計画に関する事務を所管する委員会



委員長  
和田 誠



副委員長  
番屋 博光



委員  
五十嵐 淳



委員  
小笠原 君男

## 第530回 三戸町議会定例会（6月議会）予定

6月2日(火)	10:00 開会、町長による議案提案理由の説明
6月3日(水)	議案熟考のため休会
6月4日(木)	10:00 一般質問
6月5日(金)	10:00 一般質問、議案審議・採決

## 編集後記



議員になって、気がつけばもう丸2年が経ちました。この3月議会では、議員自らの手で議員定数削減の条例改正を可決しました。議会改革の一步として、小さくとも確かな前進だと感じています。

議員になった時から、ずっと心がけてきたのは「議会の見える化」です。先輩議員の皆さんも同じ思いを持っており、一緒に取り組んでいけることを頼もしく思っています。

最近では、「何をやっているか伝わってきているよ」と声をかけてくださる町民の方が少しずつ増えてきました。その一言が、何よりの励みです。これからも皆さんに伝わる議会を目指して、取り組んでまいります。

(五十嵐 淳)

三戸町議会広報編集委員会  
委員長 山田 将之  
副委員長 栗谷川 柳子  
委員 久慈 聡  
委員 藤原 文雄  
委員 五十嵐 淳